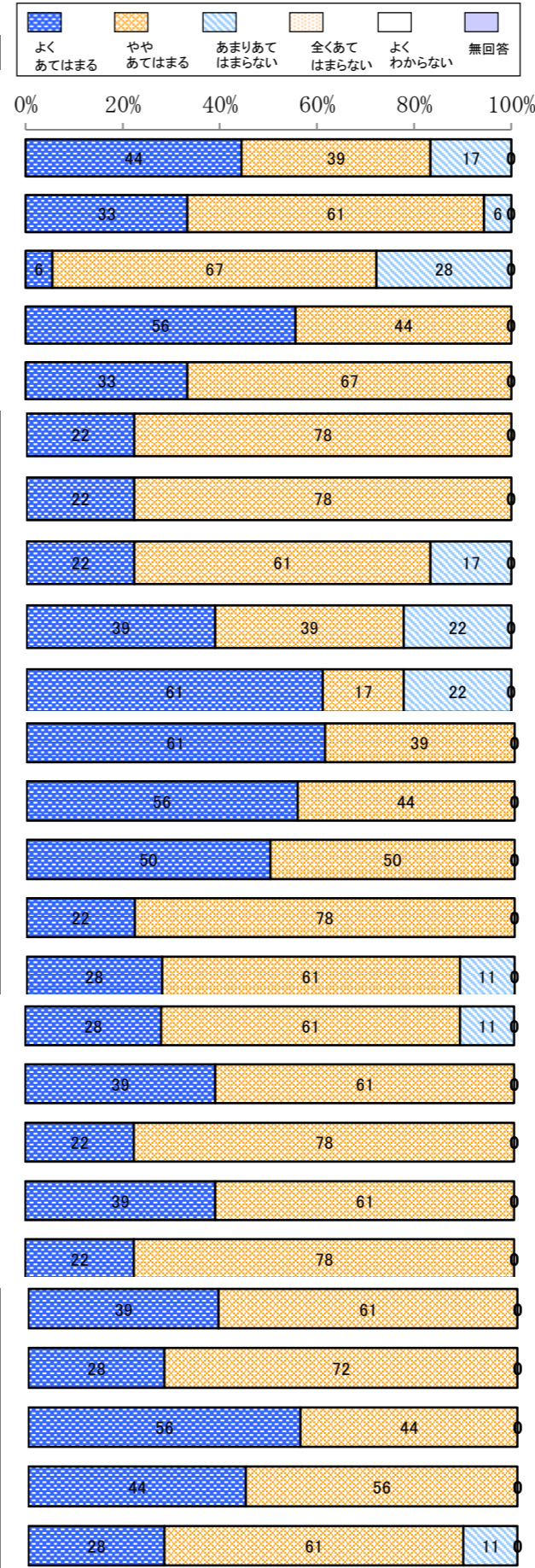


令和5年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立第五峡田小学校

様式 4

		アンケートの結果		上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
		A	B	C	D	よく分からない	無答		
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	47	37	9	2	5	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	69	23	4	2	2	0
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	48	39	8	1	3	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	45	37	12	4	2	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	57	29	8	3	3	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	60	29	6	2	3	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	64	28	6	1	2	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	63	20	10	5	2	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	70	23	5	1	1	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	62	26	8	2	2	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	64	30	4	0	2	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	50	37	8	2	3	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	50	28	11	5	6	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	75	18	4	1	2	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	58	31	9	1	2	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	47	26	9	4	14	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧を受け止め、適切な対応をしている。	60	26	8	2	4	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	55	27	10	4	4	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	40	30	16	11	4	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	54	28	9	2	7	0
各学校の特色ある教育	21	家庭学習	学校は、家庭と連携を図りながら、家庭学習を進めている。	53	33	5	1	7	0
	22	情報モラル	学校は、ご家庭でのゲーム、テレビ、携帯電話、パソコン等の使い方やその使用制限、及び児童の情報モラルについて指導している。	52	26	8	3	11	0
	23	体力向上	学校は、ペースランニングや長縄週間など、体力向上に向けて教育活動を計画している。	63	24	6	2	5	0
	24	学習準備	学校は、児童が忘れ物をせず学習に臨むことができるようにするなど、配慮や指導をしている。	61	27	6	1	5	0
	25	地域との連携	学校は、地域のよさや伝統文化を尊重しようとする心や態度を育てている。	55	25	10	3	6	0



学校の自己評価（考察）	
児童、保護者の80%が、よくあてはまる、ややあてはまると答え、教育目標の周知はできている。あまりあてはまらないと答えた教職員が17%となった。	
昨年度に引き続き、肯定的な回答が90%を超え、多くの児童が学校生活を楽しそうに送っていることが分かった。全くあてはまらない、よく分からないと答えた児童・保護者が数名いるので、面談などを利用し、児童理解にさらに努めていく。	
前年度に引き続き、児童、保護者は肯定的な評価が多く、教職員は否定的な評価が多かった。認識の違いがあることが要因なので、学校での様子を保護者に粘り強く伝え、基本的な生活習慣について児童、保護者と共通理解を図っていく。	
あてはまる、ややあてはまるが、児童、保護者とも80%だった。12%の児童が、ややあてはまらない、あてはまらないと答えており、教職員はさらに児童理解に努めていく。	
日々、安心、安全を呼びかける場面が多く、防災教育の充実について肯定的にとらえる人数が増えた。児童・保護者は80%だが、あてはまる、よくあてはまると答えた教職員は100%になった。	
多くの児童・保護者が分かりやすい授業が実践されていると回答している。よくあてはまる、あてはまると答えた教職員は100%であった。学校は誰にでも分かりやすく楽しい授業を目指し、授業改善をさらに推進していく。	
校内研究で学力向上を目標に、学校全体で指導を続けたことで、よくあてはまると回答した児童が極めて多くなった。あてはまらない、よく分からないと答えた保護者も10%いるので、研究の成果をホームページ等で周知しつつ、個に応じた指導を引き続き進めていき、学校公開等でも積極的に授業を行っている。	
児童は家庭学習には意欲的に取り組んでいると感じているが、教員、保護者は不十分であると感じているところがある。家庭学習の取り組み方を学校全体でそろえ徹底させる取り組みをする必要がある。また、放課後のあらかわ寺子屋教室についても周知していく。	
児童・保護者共にタブレットPCを使用している学習には肯定的な意見が75%。校内研修の充実により、多くの教職員がICT機器を活用して授業を進めている。児童のモラル意識を高め、積極的にICT機器を使った授業を展開する。持ち帰って自宅でも学習できるようシステムの整備を進めている。	
司書教諭、学校司書と協力して調べる学習を進めたり、読書チャンピオンカードを活用した読書活動を行ったりしていることで、教職員の意識が高く、児童の評価も高い。よく分からないと回答している保護者にも理解いただけるよう、家で本を読む「家読」の協力を得ながら、その成果も伝えていく。	
9割近くの児童、教職員は本校の人権教育には肯定的な意見を寄せている。例年取り組んでいるふれあい標語を継続的にしたり、道徳や学級活動等で人権課題を取り上げた実践を通して、偏見や差別を許さない態度を育んでいく。学校だより等を活用して伝えていく。	
授業の工夫や評価を行っていることで、保護者の、否定的な回答が昨年度の13%から6%に減った。日頃の授業改善から意識を高め、道徳性を育む教育を一層推進していく。	
前年度の約半数の保護者が否定的な評価もしくはよく分からないとしていたが、今年度は、35%になった。引き続き、スクールカウンセラーや関係機関と連携し、教育相談に取り組んでいく。	
児童・保護者・教員ともに95%以上の肯定的な評価であった。運動会や展示会をはじめ、多くの対策を講じて学校行事を進めることができた。保護者や地域の方々にも学校側の対応を理解してもらい、協力を得ることができた。	
あてはまる、ややあてはまるが、児童、保護者とも85%を超えた。10%の教職員が当てはまらないと回答しているため、改善策等を校内で検討し、より児童が肯定的な評価になるよう努める。	
前年度と比較すると、肯定的に回答する児童、保護者の割合が20ポイント程度に増えた。より一層学校ホームページの更新率を高め、スクリーンを有効活用し、保護者や地域の方に学校の様子を知っていただく機会を増やす。	
児童、保護者のそれぞれ3%が全くあてはまらないと答えている。あてはまる割合を増やすため、一人ひとりの児童理解、保護者の要望により一層耳を傾け、教育活動をしていく。	
学校公開週間や土曜公開日を行い、9割以上の児童・保護者から学校の対応を高く評価された。昨年と比べ、さらに肯定的な回答が増えた。今後も保護者や地域の方々に参加しやすいように工夫していく。	
よく分からないと回答した保護者が30%程度いる。あまりあてはまらないと答える児童が30%と多い地域行事への参加にはコロナ禍以降十分復活はしていないが、地域との交流を学習計画に意図的に位置づけていく必要がある。	
教職員は地域や保護者の意見や要望を受け止めながら教育活動を行っているが、よく分からないと回答した保護者が一定数いることは前年度と変わらない。今後も地域や保護者の意見や要望を受け止めながら教育活動を進めていく。	
学校は児童の発達段階に応じた指導・支援を進めているが、よく分からないと回答した保護者の割合が、11%であった。児童の否定的な回答も15%程度いたので、よりきめ細やかな対応をすすめていく。	
保護者の中で否定的な回答は減った傾向にある。引き続き家庭でのゲームや動画閲覧の時間設定には各家庭に任せているところがほとんどであり、学校からも指導が必要である。また、情報社会の変化についてアンテナを張り、学校と保護者が一体となり、児童の健全な情報モラルについて指導していく。	
児童、保護者、教職員共に、肯定的な評価を得ることができた。引き続き、感染症対策を徹底しながら健康で安全な学校生活を保障していく。	
100%の教員が肯定的な評価をした。前年度と比較し、大幅な改善が見られた。今後も保護者と連携を図り、生活指導や学習規律の確立を行い、児童にあった指導を行っていく。	
児童、教員とも、80%以上が肯定的な評価を出している一方、保護者は10%程度が否定的な評価を出し、20%程度がよく分からないという回答だった。	

無効票を除く (%)

